

幹事長日誌

(平成18年1月～7月2日 総会前まで)

栗原誠一

- 平成18年元旦 : うす曇の空で新年が始まった。上空に大陸からの寒気団が居座って寒い年越しだったが、今年も楽しいことが沢山あることだろう。昨年の夏は長くて皮膚科は繁盛したが、茶毒蛾の毛虫皮膚炎とヒロヘリアオイラガに刺されたのが6:4くらいだった。今年はどうなるか。
- 1月3日(火) : 新年の医会関連メール第1便は、なんと平松正浩先生から。産業医委員会勉強会の打ち合わせ。リキが入っているな～～、医会の皆が元気になるのは嬉しいかぎり。
- 1月12日(木) : 広報委員会。「神皮」第13号編集。
- 1月14日(土) : 健保委員会。国保審査委員の中村洋先生が厚生労働大臣表彰を受けられたお祝いを兼ねて。18年間委員を続けてこられた中村先生は、いつも日焼けしておられるので一見するとスポーツ万能のこわもて中年だ。しかし実は物静かで理性の塊のような太公望で、兄貴分として教えて欲しいことがたくさんある。さらに頑張っていたきたい。社保審査委員の勝岡憲生教授より交代希望あり、審議が始まった。
- 1月19日(木) : 第1回産業医委員会勉強会。参加者65名。演題1 / 「皮膚科と産業医学—レーザー治療とその安全管理について—」安田浩先生(産業医大形成外科)。各種レーザー機器の特性と安全管理について、ことに目の保護や部屋の管理について話された。表面を冷却しながら照射するV-beamの効果は見てみたいもんだ。演題2 / 「皮膚科診療と患者満足度—ビジネスとしての皮膚科診療—」満田邦彦先生(Japan MDC, LCC)。2:8の法則、スタッフの応対、トイレのことなど、基本が大切だと再認識した。
- 1月21日(土) : 大学入試センター試験の日だが、恒例のように朝から雪が降り、受験生がかわいそう。常任幹事・委員長会議。次期幹事候補者のリスト作成を行った。会議の途中で、菅原信会長より「今限りで会長職を辞したい」との申し出があった。一同とても驚いたが、「後のことはあれこれ言わないから神奈川県皮膚科医会をよろしく」との潔い決断には、さすがだと思った。
- 1月26日(木) : <KDA Research PILZ>。抗真菌薬の内服単独療法と外用を併用した場合の効果を比較する自主研究。本日、メンバーが一堂に会してのプロトコール説明会が開催された。学術的な評価に堪えるデータを出そうじゃないか!!
- 1月29日(日) : 訃報 / 桜本敏夫先生(53歳)茅ヶ崎市
近藤義正先生(80歳)横浜市中区
- 2月1日(水) : IT委員会
- 2月8日(水) : プロベシア発売記念講演会。共催するに至らなかった。
- 2月11・12日(土/祝・日) : 第69回日皮東京支部総会・学術大会。横浜市大が主管で天候にも恵まれて大盛況。見込みを大きく上回る参加者。
- 2月12日(日) : 日臨皮南関東山静支部総会。支部長が菅原→金丸哲山に交代した。
- 2月16日(木) : 第1回神奈川フットケア研究会。コメディカルを含めた有料参加者196名。演者の田辺恵美子先生、新井裕子先生ともに実際の診療に裏付けられた内容を話されたので、明日からすぐに役立つ。年に数回は開催して欲しいものだが……。

- 2月18日(土) :伊勢原市市民公開講座。秦野伊勢原医師会から依頼されて講演したが、将来は医会宛に講演依頼状を出してもらい派遣する形にしたい。
- 2月22日(水) :健保委員会
- 3月5日(日) :第120回例会。121名出席。ミニレクチャーの画期的な企画「上手なレセプトを書くために」が好評だった。例会前の幹事会で次期の執行部が選出された。これから7月の総会までは見習い期間のような状況になる。何か対策を考えねばいけないだろう。
- 3月9日(木) :企画委員会
- 3月13日(月) :診療報酬点数改定伝達講習会：増田智栄子、鎌田英明、一山伸一出席。
- 3月18日(土) :健保委員会。6年ぶりかな、久々の健保改正説明会準備。
- 3月29日(水) :健保改定説明会。参加者153名。今回から会員の医師だけでなく事務さんでも1施設1名なら出席を許可することとした。増田智栄子委員長の“カオ”で桜木町の健康福祉総合センターを会場に確保できた。私は質疑応答で正直すぎる発言をしてしまい、国保審査委員としての資質を疑われたかな、少し反省。
- 4月15日(土) :常任幹事・委員長会議。今回は7月2日40周年記念例会の検討を兼ねており、通常より1ヶ月早く開催した。また、6年以上続いたこのメンバーで最後の会議。
- 4月26日(水) :会計ならびに会務の監査。花岡宏和先生、滝沢清宏先生より厳しく監査していただいた。
- 5月20・21日(土・日) :第22回日臨皮総会・臨床学術大会(札幌)。杉田泰之先生が神皮会学術・サーベいの所属としてNSAIDs外用薬の発表。私は日臨皮と日本看護協会のジョイントフォーラムを担当した。医会の仕事と重なって大変な目にあっただが、日臨皮の在宅医療委員長の職責を全うしてバトンタッチできた。菅原先生は副会長を卒業して監事に就任された。現地で「神奈川県皮膚科医会ご一行様」の食事会を開催。日臨皮の臨床学術大会には医会として毎年参加したいものだ。
- 5月27日(土) :日本褥瘡学会地方会。袋ちゃんが出撃準備しているのに連絡が来ない。もう怒ったぞ!!
- 5月31日(水) :健保委員会
- 6月2・3日(金・土) :第105回日皮総会(京都)
- 6月10日(土) :第55回神奈川医真菌研究会。興味深い演題が多く、質疑応答の時間を十分にとっているので「耳学問」になる研究会だった。スポンサーつきの会だが、組織はしっかりしている。このような会をサポートするのも医会の責務だと思う。
- 6月22日(木) :学術・サーベイランス委員会。杉田泰之先生が委員会の活動に関して大演説をしてくれた。若人(でもないか)の志に意を強くした。もっと働き場所を作らねば。
- 6月24日(土) :創立40周年記念事業打ち合わせ会。展示メーカーさんと一緒に各パートの実行委員が下見をして、企画の最終チェックをした。
- 7月2日(日) :神奈川県皮膚科医会創立40周年記念・第121回例会ならびに祝賀懇親会 天気予報では100%梅雨空のはずが、薄日の射す絶好の宴会日和になってくれた。前夜に同好の仲間が集まって痛飲しすぎたのだが、早朝に関亭廟と媽祖さまにお参りした御利益に違いない。祝40周年、先達に大感謝。総会で新しい執行部が承認される予定で、身のひきしまる思いだ。



これより先の幹事長日誌は胆力の塊のような鎌田ちゃん

幹事長日誌

(平成18年7月2日～12月)

鎌田英明

- 7月2日(日) :曇り時々晴れ、於/ホテルニューグランド
神皮121回例会(40周年記念例会)開催。菅原信会長がご勇退。栗原誠一新会長ご就任が総会で承認され、いよいよ幹事長の大役を担うこととなる。身の引き締まる想いだ。40周年記念例会は、井上勝平先生の感銘深いご講演に感激し、皮膚科専門医試験の難しさにうなり、良い時代に皮膚科医になったと改めて思う。懇親会での松井バンド、JIMPI BANDの演奏はお見事で、神皮会員の多才ぶりに改めて驚かされる。特に浅井俊弥先生はいつ寝るのだろうか? ともかく、順調な船出の日であった。総参加者数205名。
- 7月5日(水) :雨、於/横浜エクセルホテル東急
企画委員会。木花光新委員長の下、今後の例会企画が熱心に討議される。これが神皮の原動力なのだと思う。何しろ3年先の担当幹事が決定される世界なのだ。
- 7月6日(木) :曇り
平成21年の3月、7月の例会幹事に委員会で決まった原尚道、袋秀平先生に承諾を求めるメールを配信。お二人とも御快諾いただく。その他、40周年の礼状作り、新役員挨拶状などなど多数。
- 7月15日(土) :雨、於/キャメロット・ジャパン
産業医委員会。委員長代行として初めて産業医委員会に参加する。皮膚科医としての産業医活動には難しい面もあるが、今後の委員会活動が皮膚科医の産業医参画への一歩になればと思う。
- 7月30日(日) :曇り
県薬剤師会からの講師派遣依頼に野村有子先生の派遣が決まる。今後もこの種の依頼や、製薬会社の講演会の後援、共催の依頼が多くなって来ることが予想される。一定のルール作りや、受付窓口など手順を決めておく必要がある。
- 8月2日(水) :晴れ、於/ホテルニューグランド
40周年記念例会実行委員会打ち上げ会。例会からちょうど1カ月後のこの日、会場となったホテルニューグランド、スターライト東の間において慰労会を開催する。当日の写真を川口博史先生がスライドショーに作り上げてくれて、当日の裏話などに花が咲く。やっと梅雨明け。
- 8月3日(木) :晴れ、於/バイシェラトン・ホテル
広報委員会。新たに委員会組織が改変されて、野村委員長の下、広報委員会がスタートした。野村先生一流のファンタスティックな発想と、会議進行の手際の良さで、どんどん「いい皮膚の日」が形作られていく。みんな「お願いしまーす!」に弱い。
- 8月5日(土) :晴れ、於/インターコンチネンタル・ホテル
メーカー共催講演会。これまでは、神皮として定例の例会以外にはメーカーとの共催、あるいは後援などを引き受けることをあまりしないという不文律があったかどうかは定かではないが、医療現場を取り巻く時代の変遷などを鑑みて、今後の試金石となる試みではあった。日ごろの定例の例会とはまた一味違った勉強の場にもなったと評価できる講演会であった。今後、一定のルール作りなどの課題をクリアーして、会員にとって有意義な会の開催は推進していくべきかと思う。

- 8月18日（金）：晴れ
40周年記念事業の収支決算が確定。ほぼ予定の額におさまり、ホッとする。協力メーカーに会長礼状とともに収支報告書郵送。
- 8月26日（土）：晴れ、於／横浜エクセルホテル東急
神奈川県皮膚科医会サマーセミナー。残暑にもかかわらず、52名の参加があり、電子カルテについて活発な意見交換が行われた。浅井先生始め、IT委員会の先生方ご苦労様でした。
- 8月31日（木）：晴れ、於／ホテル・キャメロット・ジャパン
編集委員会。川口新委員長の「神皮」編集委員会の初顔あわせ。神皮14号の構想が練られた。盛り沢山の内容で、来年の発行が待ち遠しい。私も原稿を書かねば。
- 9月5日（火）：晴れ
県医師会学術高橋様に生涯教育8月分（サマーセミナー）報告。
- 9月14日（木）：雨→曇り、於／キャメロット・ジャパン
第15回在宅医療勉強会。袋秀平新委員長の下、初開催の勉強会だったが、以前から委員として携わっておられたためか淡々と会も進行された。おなじみの東大健康科学、真田弘美先生のニューバージョンのお話と増田智栄子先生のお話、あっという間の2時間でした。参加者も130人と大盛況でした。
- 9月25日（月）：曇り
県医師会学術高橋様に生涯教育9月分（在宅勉強会）報告。
- 10月4日（水）：晴れ
第6回川崎市皮膚科医会に、栗原会長と共に参加。アットホームな会でしたが、望月明子先生を筆頭に女子医パワーも炸裂していました。神皮でもよろしくお願ひいたします。
- 10月14・15日（土・日）：晴れ、於／ホテルニューキャッスル（青森県弘前市）
日皮東部支部第70回学術大会。神皮の先生方とも結構お会いしました。
- 10月21日（土）：晴れ、於／ベイシェラトン・ホテル
常任幹事会。新体制第1回目の常任幹事会開催。来年の日臨皮総会への演題提出など、活発な討議が行われた。
- 11月11日（土）：雨、於／はまぎんホール
第115回横浜市皮膚科医会。季節はずれの悪天候にもかかわらず多数の出席あり、栗原会長も参加された。
- 11月12日（日）：快晴、於／赤レンガ倉庫
「いい皮膚の日」行事。前日の悪天候がうそのように晴れ渡る絶好の日和となり、会場には続々と参加者が入り、最終的には立ち見の観客も出るほどの大盛況。野村有子担当常任幹事の陣頭指揮の下、神皮の見事なチームワークが発揮でき、今年も大成功に終わりました。いつもながら「野村企画」は脱帽ものです。来場者数400名、相談者48名。
- 11月18日（土）：晴れ、於／オリエントホテル横浜開洋亭
第5回 Joy Derma Club。閉館目前の開洋亭で開催。国際親善総合病院山田裕道部長のレーザーのお話とNTT東日本関東病院五十嵐敦之部長のプロペシアのお話で盛り上がったとか……。参加者40名。山田先生、「禁断の園」はいかがでしたか？
- 11月23日（木／祝）：曇り、於／品川コクヨホール
第22回日臨皮三支部合同学術集会。栗原会長は同日行われた神奈川医学会と掛け持ち参加、頭が下がります。
- 11月30日（木）：曇り、於／ホテルニューグランド
健保委員会。一山伸一新委員長での初会合。健保Q & Aの検討他、健保問題について審議。

栗原会長は、丹沢皮膚の会へご出席のため欠席。

12月3日(日) : 快晴、於／小田急ホテルセンチュリー相模大野
第122回神皮例会。担当幹事：松山孝幹事。久しぶりの相模大野開催。好天にも恵まれ、122名の参加者。

森田明理名古屋市大教授 「光が皮膚を治す」

市橋正光神戸大学名誉教授 「光老化の発生機序とアンチエイジング」

我々は、光老化に関しては既にあきらめねばならぬとの由。ウーム。

12月5日(火) : 晴れ
県医師会学術高橋様に生涯教育12月分(第122回例会)報告。

12月6日(水) : 晴れ、於／横浜エクセルホテル東急
企画委員会。例会が終わったばかりというのに、もう次の打ち合わせ。皆さんの熱心さが神皮の支えです。

12月11日(月) : 雨
勝岡憲生北里大教授が会長の皮膚脈管・膠原病研究会に寄付金振込み。

12月15日(金) : 晴れ、於／横浜エクセルホテル東急
広報委員会兼「いい皮膚の日」打ち上げの会。来年の皮膚の日の構想が野村先生から披露され、委員の皆さんから種々の建設的な意見も多数出され、来年はさらに大きな会場とのことで、期待が膨らみます。つい午前様。

12月21日(木) : 曇り
石井則久先生が会長のハンセン病学会に寄付金振込み。

12月22日(金) : 平成19年1月20日(土) 常任幹事会開催通知。ひとまず、無事に今年の幹事長業務を終了。来年も良い年になることを祈る。

委員会報告

Joy Derma Club だより

●第4回 Joy Derma Club

日時：2006年5月13日(土) 18:00～

場所：株式会社ファンケル ファンケルビル アネックス

参加者：37名

日頃患者さんから「コエンザイムQ10は肌にいいんですね」「コラーゲンを飲むのも肌にいいんですか」「今こういうサプリを飲んでいるのですが、処方薬といっしょに飲んで構いませんか」というような質問があり、今回これにスポットをあて、ファンケルさんの全面協力で「サプリメントとは」を企画致しました。

当日ご参加いただきました熱海の二宮文乃先生から面白いお話を伺いました。漢方薬もその昔はサプリメントの一種で、2500年の試行錯誤を経て、今では



処方が出来上がってきました。一方現在サプリメントも時代を経れば経験的に処方できてくるかもしれませんが、現在たくさんのサプリメントがありますが、どのような作用があるのか、医師はしっかり把握して、患者さんの病態に対応していく知識を持つべきだと力説されました。今回このような勉強の機会が持てて良かったと思いました。以下、抄録を付記いたします。

サプリメントについて

株式会社ファンケル 学術本部 濱田和人

皮膚は我々の体を外界から守ってくれる最前線の組織であり、この皮膚にとってビタミンやミネラルに代表される栄養成分は不可欠のものです。実際に栄養成分が欠乏すると皮膚の正常な機能が損なわれ、生活習慣病も含めてさまざまな疾患を引き起こすことが知られています。例えば、ビタミンB群が欠乏すると脂漏性皮膚炎に代表される皮膚疾患を惹起します。また、亜鉛の欠乏は創傷治癒過程が遅延する為、褥瘡や皮膚疾患などが治りにくくなります。従って、こうした疾患の予防としてサプリメントを摂取することは一つの有効な方法であり、我々の生活のQOLを上げることも可能となります。

サプリメントとは、「食生活で不足する食品成分、または通常の食生活に追加して摂取することで健康の維持、増進に役立つ食品成分を含む食品」と定義することができます。食品は保健機能食品あるいは特別用途食品と一般食品に分けられます。この保健機能食品は特定保健用食品（いわゆる、トクホです）と栄養機能食品との総称です。トクホは厚生労働省の審査基準により、作用機序が明確で、かつ5%以下の有意差で無作為割付二重盲検試験にて有効性が認められているものです。より審査基準の緩和なものとして、条件付きトクホ、規格基準型トクホ、疾病リスク低減表示が2005年2月から認められています。栄養機能食品では、ビタミン12種類、ミネラル5種類に関して、上限値と下限値が決められており、この範囲内であれば「栄養機能食品」と表示できる規格基準型になります。このように、特定保健用食品、栄養機能食品は保健機能食品であり、食品衛生法と健康増進法にて規定されています。尚、特別用途食品とは病者用食品と特定保健用食品を指します。

ファンケルでは、お客様から商品に関する様々なご相談・ご質問の中で医薬品との飲み合わせに関するご質問が年々増加しています。この状況を受けて、サプリメントと医薬品の相互作用に取り組み、SDI (Supplement & Drug Interaction) 検索システムを開発し、弊社のサプリメントとお薬の飲み合せ情報窓口を開設しました。SDI検索システムには、日本で発売されている医療用医薬品約19,000種類と一般用医薬品、いわゆる、OTC薬約13,000種類、そして弊社のサプリメント商品約100種類、成分で申しますと約210種類の飲み合わせに関するデータが収められています。例えば、コエンザイムQ10には抗凝固剤であるワルファリンとの相互作用に関する報告として、ワルファリンの作用を減弱する可能性を示唆する症例報告があります。一方、二重盲検試験にてコエンザイムQ10、100mgとワルファリンを併用しても必要量に影響しなかったとの報告もあります。この様に影響ありなしの両方の報告がありますが、弊社のコエンザイムQ10の目安量は60mgとなっており、ワルファリンを服用中の方には念の為に摂取を控えて頂くようお知らせしています。また、コエンザイムQ10に降圧作用があるとの報告もあります。添付文書には降圧剤との相互作用の記載はありませんが、弊社では降圧剤を服用中の方には併用を控えて頂くようお知らせしています。尚、スタチン系薬剤はHMG-CoA還元酵素を阻害することでコレステロールの合成を阻害する為にコエンザイムQ10の合成も同時に阻害して30~50%減少しますので、本薬服用者にはコエンザイムQ10の補給が望まれます。

以上のように、ファンケルはサプリメントと医薬品の相互作用を調べるSDI検索システムの構築、サプリメントに関するセミナーの開催、書籍「医療従事者のための機能性食品ガイド」の発刊、「日経メディカル」別冊「EBサプリメント」の編集などに取り組み、お客様に、そして医療従事者の方々に情報を提供しています。

(担当：増田智栄子)

●第5回 Joy Derma Club

日 時：2006年11月18日（土） 18：00～

場 所：オリエンホテル横濱開洋亭 別館2F 「煉瓦」

共 催：万有製薬株式会社

講演参加者：40名

プログラム

1. 開会の挨拶：「プロペシア錠の適正使用情報」毛利 忍先生（横浜市立市民病院 皮膚科）

2. 特別講演1：「レーザー脱毛」山田裕道先生（国際親善総合病院 皮膚科部長）

講演では、まずレーザーの定義、特性、分類、発振モードといった基礎的事項の説明から、脱毛に使われるアレキサンドライト・レーザーの分類と実際の機種、そしてレーザー脱毛治療の実際の手技を、非常にわかりやすく、臨床写真や組織写真を交えて詳しくお話しして頂きました。治療の経過や破壊された毛包の組織などが大変よくわかりました。現在、脱毛に悩む若い女性は多いですが、部位別の料金や回数など具体的なこともいろいろ教えて頂きました。これから脱毛希望の患者さんは、ぜひ国際親善総合病院にご紹介したいと思います。

3. 特別講演2：「男性型脱毛症（AGA）の新たな治療戦略」

五十嵐敦之先生（NTT東日本関東病院 皮膚科部長）

今回五十嵐先生に、男性型脱毛症（AGA）の定義・進行パターン、フィナステリド（プロペシア）の作用機序、AGAに対するフィナステリドの国内・海外の臨床試験成績などにつき、お話し頂きました。国内・海外の試験成績では、投与期間と共に毛髪数の差は拡大すること、早期に治療開始するほど毛髪数は多いことなどがわかりました。また、フィナステリドはミノキシジル（リアップ）よりも有意に優れており、両剤を併用することで効果が上がることもわかってきたそうです。注意すべき点は、フィナステリドは女性には無効なこと、また、内服中は血清PSA値が半減することです。

◎今回は「生やしたい人」「抜きたい人」と、正反対の毛の話でしたが、どちらの先生もユーモアたっぷりに楽しくお話しして下さり、笑いながら新しい知識を得ることができて、大変有意義な講演会でした。参加して下さった先生方にも大好評で、とても喜んで頂きました。

（担当：望月明子）

委員会報告

IT委員会だより

浅井俊弥

平成18年7月2日、夜。JIMPI BANDのステージ終了とともに、burn out！ 私は自らの人生がその日をピークに下り坂となったことを自覚し、最近は何もないような元気がありません。それにしても昨年は例年になく、いつまでも忙しかったなあ。毛虫もそうだけど、マラセチア毛包炎が多かった。地球温暖化が原因だろう。ただし、健保のマイナス改定の影響で、頑張った割には売り上げは一昨年並み。結局、皮膚科はたくさん患者さんを診ないと、ダメなのですね。ということで、日々診療に追われ、業者への連絡の時間がとれず、できるかどうか心配だったIT委員会主催の電子カルテ勉強会（サマーセミナー）ですが、何とか開催することができてほっ

としています。本年度の活動は以下の通りですが、まだまだやらなければならない仕事が目白押し。とくに委員会の中に治験準備小委員会を設けることが承認されたのですが、こちらはまだ手つかずの状態です。来年度はガンパロ。

●神奈川県皮膚科医会HPの管理

・皮膚病の話のコンテンツ

▽冬場のスキンケア／向井秀樹先生（横浜労災病院）平成17年12月

▽新しい白癬菌（水虫の原因菌）によるタムシ・シラクモについて／畑 康樹先生（済生会神奈川県病院）平成18年1月

▽海水浴皮膚炎—チンクイにやられた！—／天野隆文先生（逗子市）平成18年8月

・IT委員会での講演（平成18年2月1日）

神奈川県皮膚科医会HPのアクセス解析／(株)環 江尻俊章社長

●各委員会メーリングリスト（ML）の作成・運用

・常任幹事会のML

・幹事会・委員会メンバー全員のML

・IT委員会・在宅医療委員会・編集委員会・広報委員会・産業医委員会の各委員会とJoy Derma ClubのML

●神奈川県皮膚科医会サマーセミナーの開催

日時：平成18年8月26日（土）17：30～21：00

会場：横浜エクセルホテル東急 3F



JIMPI BAND in Hawaii

プログラム

○AGA治療最前線

1) 男性型脱毛症治療薬 プロペシア錠の適正使用情報

万有製薬(株) 横浜支店 石島 宏

2) プロペシア錠最近の話題～知らないとコワイ、最新の情報～

浅井皮膚科クリニック 院長 浅井俊弥

○電子カルテ最前線

1) 電子カルテでこうなる！—メーカーとドクター、それぞれの視点から—

①富士通 横浜労災病院 (Dr.向井秀樹)

②BML 金沢皮膚科 (Dr.川口博史)

③サンヨー 内山皮フ科 (Dr.内山光明)

④システムロード 浅井皮膚科クリニック (Dr.浅井俊弥)

2) パネルディスカッション—何がよくて、何がわるいの？—

パネリスト (向井秀樹、高須 博、川口博史、杉田泰之、浅井俊弥)

当日、電子カルテを使用しているDrの経験談、使用していないDrからの質問を中心にディスカッションを行った。

3) 企業展示

①富士通 Hope/EGMAIN series

②BML Medical station

- ③サンヨー（中央ビジコム） Doctor's partner
- ④システムロード Racco
- ⑤デルマ医療 Derma9500（ダーモスコピー）

収入	会費収入	¥1,000	52名	¥52,000	事務局へ
	展示費	¥50,000	4社	¥200,000	
	計			¥252,000	
支出	会場費			¥135,187	横浜エクセルホテル東急へ
	振り込み手数料			¥630	
	案内郵送料			¥67,200	
	計			¥203,017	
収支				¥48,983	悲願の黒字！

- ・案内が遅くなって、出席者が若干少なめだった。
- ・パネリストの先生方、どうもありがとうございました。全くの打ち合わせなしのアドリブでしたが、皆さん、上手にまとめて下さいました。

●第2回IT使用状況アンケート（返信はがきを利用）

- ・回収率 病院勤務医 63 / 132 (47%)
開業医 162 / 336 (45%)
- ・3年前も同様のアンケートを施行、比較した結果を含めて、「どう選ぶ、電子カルテ」という演題で、第106回の日皮総会（コンピューター利用研究会）で発表する。すでに会長の上出良一先生から依頼あり、快諾した。

●法人会員への神奈川県皮膚科医会HPリンク利用依頼（各社¥5,000 / 1年）

委員会報告

編集委員会だより

川口博史

旧広報委員会から名称を改め、「神皮」の編集に特化した形で今年度から編集委員会となりました。広告費集めのプロ、そして文才豊かな木花光委員長から川口が委員長を引き継ぎました。どうぞ宜しくお願いします。委員は基本的には昨年度のメンバーが引き続き務めてくださり委員長としては気心の知れたメンバーで助かっていますが、新たに河原由恵先生を副委員長として招き、また新しい委員も参加して下さり楽しく運営したいと思っています。昨年の8月31日に第1回、今年1月11日に第2回の委員会を開き、「神皮」14号のアウトラインを相談しました。今年は40周年記念会を記録として残す目的で、例年の「神皮」と比べて内容が盛りだくさんかと思いますがいかがでしょうか？表紙は昨年同様、宮本委

特別付録



私は爬虫類は得意ではないので魚類でいこうかと（笑）。昨年4月、のっこみマダイ5.5kgを釣り上げました。お腹パンパン（魚の）で卵がでかかったです！

員のお母様（昨年お亡くなりになりました）の作品を使わせて頂きました。

「神皮」は医会活動の記録、という使命も担っていますが、会員が楽しく読めて、ためになる？内容を目指しています。これからも皆さんの隠れた才能、趣味などを発掘していきたいと思いますので、原稿写真等どしどしお寄せください。また原稿依頼があった際にはどうぞ宜しくご協力ください。

（編集委員：川口博史〈委員長〉、河原由恵〈副委員長〉、相川洋介、浅井俊弥、岡 史子、小野秀貴、馬場直子、宮本秀明、山本 修）

委員会報告

学校保健委員会だより

武沼永治

○平成 18年2月1日

神奈川県医師会学校医部会幹事会出席。

○平成 18年5月21日

日本臨床皮膚科医会学校保健委員・都道府県学校保健担当者合同会議出席。「学校専門校医（専門相談医）制度」への全国参画状況は47都道府県中30地区64%（平成18年度）である。これを80%まで高めたい。

○平成 18年5月24日

神奈川県医師会学校医部会幹事会出席。平塚地区における学校・地域保健連携推進事業の報告。「学校は、プライベートを保つため、個別の相談、指導を望んでいる」「県医師会からもっと平塚市教育委員会に働きかけて欲しい」などの意見が出た。

○平成 18年6月21日

神奈川県医師会学校医部会幹事会出席。「平成17年度の厚木における専門校医（相談医）モデル事業の報告」「平塚の学校地域保健連携推進事業の報告」。問題点として、完全に県教育委員会主導であり、医師会には人事を含めて、連絡もない状態なので、医師会から強く働きかけて欲しいと要望が委員よりあった。県研究委託事業として「思春期に見られる疾患（おしゃれ障害）について」という標題で小冊子の作成決定—大倉光裕先生執筆。

○平成 18年6月25日

日本臨床皮膚科医会学校保健委員会出席。委員長に大川司先生（群馬県）、副委員長に岡村理栄子先生（東京都）、島田辰彦先生（鹿児島県）を選出。皮膚科専門校医のための教育用教材①アトピー性皮膚炎、②おしゃれ障害、③紫外線と皮膚の3つをCDとして作成する事を決定。「プールでのサンスクリーン剤の使用、アトピー性皮膚炎に対するプールでの腰洗い槽の可否などについて今後議論していく事」などが議題として取り上げられた。

（学校保健委員会：武沼永治、小幡秀一、大倉光裕、伊東文行、澤田俊一、田辺俊英、村上通敏、日野治子）

広報委員会だより

野村有子

●第1回広報委員会

日時：平成18年8月3日（水）19:30～

場所：横浜ベイシェラトンホテル（6階、ゆり）

出席者：野村有子、川口博史、栗原誠一、金丸哲山、毛利 忍、鎌田英明、山田裕道、金子佳世子、
高橋さなみ、小林誠一郎、原 尚道

欠席者：増田智栄子、蒲原 毅、千葉由幸

（敬称略）

議題1：「皮膚の日」イベントについて

平成18年11月12日（日）、14:00～16:00、横浜赤レンガ倉庫にて。野村委員長よりタイムスケジュールが配布され説明があった。

①皮膚トラブル相談室について……「皮膚の日」イベント新企画

新しい試みとして、皮膚の個別相談を13:00から15:00まで行う。各担当医（12人）には内諾を得ている。相談時間は5分程度を予定、30分で交代。事前に受け付けカードを作成し、相談内容を記入してもらう。当日の申し込み状況を見ながら、相談時間は臨機応変に対応する。ダーモスコープの実物を展示……金丸先生、川口先生よりお借りする。ただし診断についての言及は不可、あくまでも相談としての対応に注意すること。

②イベント告知について

告知のチラシは9月以降に配布予定。各種メディアに依頼済み。新規として、NHK（高橋委員）、神奈川県医師会・鎌倉ケーブルテレビ（原委員）に依頼する。TVKは横浜市医師会経由で依頼。

③イベント関連業務について

自院の職員がイベント関連の業務を行った場合は、5分単位時給1000円で賃金を支給する。実働記録を残すこと。ただし、医師が行った業務はボランティアとする。

④寄付趣意書の配布について

「皮膚の日」用の趣意書を作成した。製薬会社ごとに委員へ配布を割り当てた。数万円の寄付が無理であれば、少額（1万円）でも可とする。協賛としての展示・サンプリングの新規メーカー候補を探してほしい。

議題2：講演への講師派遣について

栗原会長より、皮膚関連の講演を神奈川県皮膚科医会の活動として行いたいとの発言あり。講師派遣の窓口として、広報委員会が対応する。

①会員への周知

個人レベルで断っていると予想される講演依頼を、神奈川県皮膚科医会で取りまとめる。医会へ連絡してもらうように会員へ告知する。

②人選・資料

広報委員会が講師として適任と思われる会員を選出、リストを作成する。幅広い人材から講師を選び、固定した人材にならないように注意する。講演で使用する資料も合わせて収集する。

③医会としての活動

体制が整い次第、医会を通して歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会等主催の講演会へ講師を派遣したい。講師派遣を医会の活動、業績の一環としたい。

④講演謝礼について

謝礼は全額演者に提供されるものとする。日時、場所、謝礼金額を明記した講演依頼状を医会に提出してもらうこととする。

●神奈川県薬剤師会湘南東ブロック研修会

日時：平成18年9月21日（木）19:00～

場所：藤沢産業センター6階 研修室

対象：鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町地区の薬剤師（約100名）

演題：「学校保健、集団生活でうつる皮膚病」

演者：神奈川県皮膚科医会広報委員長 野村有子

●「皮膚の日」記念イベント

日時：平成18年11月12日（日）14:00～

場所：横浜赤レンガ倉庫1号館

委員会報告

産業医委員会だより

宋 寅傑

平成18年7月15日（土）にホテルキャメロットジャパン（横浜駅西口）にて第7回産業医委員会を開催いたしました。出席者は計11名でした。委員会では下記のような内容が話し合われました。

1) 平成18年7月以降の産業医委員会のメンバーについての確認

委員長（代行）：鎌田英明（委員新任・役職新任）

副委員長：宋 寅傑（委員再任・役職新任）

委員 再任：尾見徳弥・栗原誠一・黒澤傳枝・齋藤蓉子・佐藤龍男・新関寛二・日野治子・平松正浩・望月明子・吉田秀也

新任：足立 真

（以上敬称略）

さらに本年度より“オブザーバー”を新設し、委員会の活動に助言をいただく。

オブザーバーは、金丸哲山、毛利忍両副会長、増田智栄子副幹事長の3名の先生にお願いする。

2) 第70回日皮会東京支部学術大会（平成19年2月）のミニシンポジウムにおける発表の内容について

産業医委員会は、“皮膚科医の社会貢献—社会に向かって行動しよう—”という題名のミニシンポジウムの中で、学校医、在宅医療とともに“産業医と皮膚科”という演題で20分間の発表を行う。発表は、宋寅傑が行い、内容は下記とする。

①神皮産業医委員会設立の経緯と活動内容について紹介

②平成18年3月に行った“産業医についての意識調査”の結果報告

③産業医制度に関する概説

④産業医の職務内容に関する概説

⑤皮膚科医が行う産業医活動とは何かについて解説。できれば皮膚科医の産業医活動の具体的事例も紹介

3) 次回産業医委員会開催と第2回以降の産業医委員会勉強会について

①第1回勉強会は平成18年1月19日(木)18:45よりホテルキャメロットジャパンにて講演2演題をもって開催した。詳細は下記の通り。

第1回勉強会プログラム

会長挨拶：菅原 信

演題1 : 座長／平松正浩

皮膚科と産業医学—レーザー治療とその安全管理について—(約40分間)

産業医科大学形成外科 科長 安田浩先生

演題2 : 座長／尾見徳弥

皮膚科診療と患者満足度—ビジネスとしての皮膚科診療—(約40分間)

Japan MDC, LCC エグゼクティブアドバイザー 満田邦彦先生

司会進行役：宋 寅傑

②平成19年は2月に行う第70回東京支部学術大会ミニシンポジウムでの演題を3月の医会例会において再度講演するという事で勉強会に代える。

③第2回勉強会は平成20年1月頃に開催する。第2回以降は、講演の演題数は2題にこだわらず、1題としてもよいのではないかと。

④第2回勉強会に先立ち、その企画立案も兼ねて平成19年秋までに次回産業医委員会を開催する。

以上が、委員会で話し合われた内容ですが、産業医委員会の新メンバーは委員長代行に医会の鎌田幹事長、委員に栗原会長(再任)、新設されたオブザーバーに金丸副会長、毛利副会長、増田副幹事長を迎え、大変ゴージャスなメンバーとなっております。また、これまで委員として活動して下さった先生方にも極力、続投をお願いいたしました。またさらに今期からは、産業医学と関連の深い関東労災病院の足立真先生にも当委員会へ所属していただきました。産業医として御活躍中の委員の先生方からは引き続き、いろいろと御指導をいただいで委員会活動を充実させて行きたいと考えております。委員会の当面の目標は、第70回東京支部学術大会ミニシンポジウムでの演題発表を成功させることであり、次の目標は第2回産業医委員会勉強会を企画し開催することです。

また、当委員会には“委員の中で産業医の資格をもっていないメンバーはがんばって産業医の資格を取得するように”との不文律があり、個人的なことになりますが、副委員長のくせに産業医未取得の私は、相棒のK先生(当委員会委員、産業医未取得)と終わった後の居酒屋での“一杯”を心の支えに平成16年12月よりコツコツと産業医研修会に通い続け、平成18年10月には資格申請に必要な単位の8割強をクリアいたしました。やっとゴールが見えてきたというところです。

産業医の資格をお持ちの医会の先生で当委員会に所属されていない先生がいらっしゃいましたら、今後は是非当委員会に所属していただいで(ご希望により委員外協力でもけっこうですが……)、お力をお貸しいただければ幸いと存じます。

在宅医療委員会だより

在宅医療委員会は、平成18年7月より、委員数を大幅に増やして活動しています。年2回の勉強会を行っていますが、今年から、冬の会をフットケアの話題に絞り込み、フットケア研究会として開催することになりました。

●第1回神奈川フットケア研究会報告

日時：平成18年2月16日（木）19:00～

会場：ホテルキャメロットジャパン

参加者：会員79名、コメディカル110名

共催：科研製薬（株）

講演テーマならびに講師：「皮膚科医とそのスタッフが知っておくべきフットケアの知識」

千葉中央皮膚科 田辺恵美子先生

「シリーズ 爪のケア① 陥入爪のアンカーテーピング法」

新井皮ヒフ科クリニック 新井裕子先生

平成17年度の在宅医療部会（現、在宅医療委員会）主催の冬季勉強会は、新しい試みとして、第1回神奈川フットケア研究会として平成18年2月16日木曜日（19:00～21:00）、ホテルキャメロットジャパンにおいて、科研製薬株式会社の共催にて開催されました。足のイボ、タコ、ウオノメ、爪の変形・混濁、陥入爪、足底の角化、糖尿病や慢性関節リウマチによる足の潰瘍などは、皮膚疾患にもかかわらず、皮膚科以外の診療科や、場合によっては医師、看護師の免許のない者までもが関わりを持ち始めています。そこで栗原誠一神奈川県皮膚科医会会長の提案で、われわれ皮膚科医ももう一度足元から見直し（診直し）、皮膚全体からフットケアを考えるため、皮膚科関連のコメディカルと一緒に勉強しようということになりました。

特別講演としてフットケアのエキスパートでいらっしゃる前東邦大学医療センター佐倉病院皮膚科講師（現、千葉中央皮膚科）の田辺恵美子先生に「皮膚科医とそのスタッフが知っておくべきフットケアの知識」を、新井皮ヒフ科クリニック（東京都目黒区）の新井裕子先生に「シリーズ 爪のケア① 陥入爪のアンカーテーピング法」を講演して戴きました。県皮膚科医会の会員の先生が79人、コメディカルの皆様が110人で、合計189人の参加があり、広い会場もほぼ満席となりました。多くの質疑・討論があり、フットケアに対する関心の高さが伺われるなか、大盛況の内に終了しました。あつという間の2時間でした。

（文責：山田裕道）

●第15回在宅医療勉強会報告

日時：平成18年9月14日（木）19:00～

場所：ホテルキャメロットジャパン

参加者：会員42名、コメディカル88名

共催：興和（株）

講演テーマならびに講師：「皮膚科在宅医療の診療報酬」

いずみ野皮膚科 増田智栄子先生

「最新の創傷管理—基礎と実践」

東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻

老年看護学／創傷看護学分野教授 真田弘美先生

一般講演として、増田智栄子先生に在宅医療の診療報酬についてお話しいただきました。実際の症例を示しながらのお話でした。また、8月に疥癬への適応が追加されたストロメクトールの使用法についても解説されました。

特別講演は、2年ぶりに真田弘美先生にお願いしました。今回も「新しいお話をお願いします」との我々の厳しい？リクエストにお応えいただき、今年5月のプラハでのEuropean Wound Management Associationでのトピックス、褥瘡に関する新しい介護・診療用ツールのご紹介、critical colonizationのお話など、我々をinspireしてくださる、素晴らしいご講演でした。出席者は会員医師42名、コメディカル88名とほぼ平年並みでしたが、欲を言えばもう少しドクターの出席が多くあってほしかったです。在宅医療に関わってくださる会員の数をやすべく、がんばりましょう。

(文責：袋 秀平)

(在宅医療委員会：袋 秀平、野村有子、山田裕道、浅井俊弥、内山光明、大澤純子、尾作 文、小野田雅仁、加藤安彦、澤田俊一、林 正幸、増田智栄子、松永 剛、村上正之、山川有子、湧川基史、渡辺知雄)

委員会報告

企画委員会だより

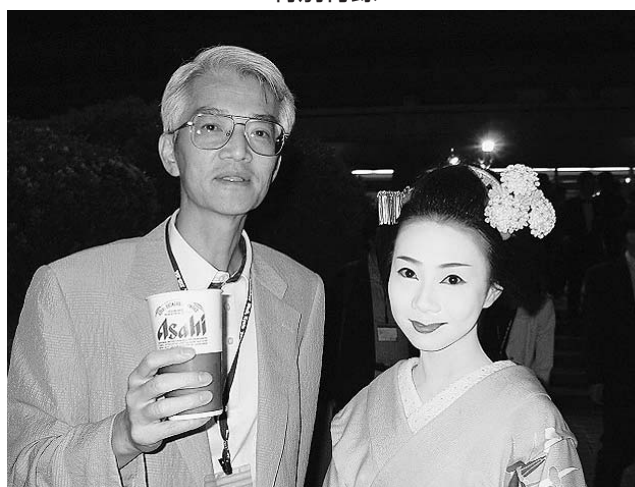
木花 光

栗原新会長より企画委員長に任じられました木花です。よろしくお願ひします。米元康蔵先生に副委員長をお願いし、相原道子、川上民裕、高須博、高橋泰英、松山孝、宮川俊一、山田裕道の各先生には委員になっていただきました。

企画委員会では例会のテーマ、演者などを決定しているのですが、以前より、例会担当幹事の「何がやりたい」という意志を最も尊重しています。企画委員としては、これが一番楽なのです。私も初めて例会担当幹事を命じられた時に、会場予約などの雑用をやればいいのかと気楽に引きうけたところ、企画委員会でどういうテーマでやりたいのですかと問い詰められて困ったのは、本誌3号に書いたとおりです。ない知恵をしぼって、こういうテーマはどうですかと提案しても、それはこの前、どこそこの学会でやったばかりとか、ケチは一杯ついたのですが。

今度は問い詰める番になりました。ヒッヒッヒッ。でも本当は問い詰めているのではなくて、いいテーマを

特別付録



どこかにいいテーマはないかな。そうだ、京都行こう

選んで例会をなんとか魅力あるものにして参加者を増やそうと、企画委員も奮闘努力しているのです。担当幹事の呻吟を肴にのんびり酒を飲んでいるように見えますが。

このように担当幹事は大変なのですが、幸い当会は多士済々で、2年先まで担当幹事が決まっています。ありがたいことです。こういう話を聞いてみたいという御希望がありましたら、企画委員にお知らせください。さらには先生御自身が担当幹事になってみてください。自分で例会をプロデュースするという得がたい経験ができます。

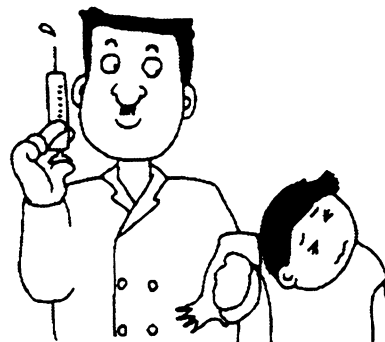
Information

原稿募集

随筆 写真 絵 イラスト 何でも歓迎いたします。

以下の様な仮の題にても原稿をお待ちしています。

- A) お宝拝見 → 秘蔵の一品
- B) 秘伝&私の工夫etc.
- C) うまくなならないGolfの話
- D) 患者さんに教わったこと
- E) 教授こぼれ話
- F) 私の近くのこんな店



等です。どしどしお寄せ下さい。原稿は原稿用紙数枚分（最長10枚）。パソコンで書かれた方は、フロッピーまたはCD-Rも送ってください。顔写真（スナップでも構いません）もお願いします。原稿・写真はE-MAILでも受けつけます。10月末までにいただいた原稿は、翌春の号に掲載いたします。

宛て先

〒236-0021 横浜市金沢区泥亀2-8-12
金沢皮膚科 川口博史

TEL 045(791)5510

FAX 045(791)5514

E-MAIL kanazawa.hifuka@seapple.icc.ne.jp

皮膚病サーベイランス委員会だより

向井秀樹

第6回神奈川県皮膚病サーベイランスは、平成18年2月13日（月）～18日（土）のうちの5日間に実施しました。今回の定点は図1のごとく31施設から集計用紙が送られてきました。お忙しいところお送り頂き感謝しております。第5回以降に参加していただいたのは、袋秀平先生（港南区）、川口博史先生（金沢区）、高橋泰英先生（中区）、天野隆文先生（逗子市）と大木和先生（相模原市）の5名です。新しく部長や医長になられた朝比奈昭彦先生（国立病院機構相模原）および松永剛先生（横浜市立みなと赤十字）には、引き続き参加していただきました。

疾患別の集計結果（表1）をみると、最も多かったのが尋常性疣贅であり、次が帯状疱疹、伝染性軟属腫、外陰部を除く単純ヘルペス、伝染性膿痂疹の順である。この傾向は過去の第4回分をまとめて第21回日本

図1. 第6回神奈川県皮膚病サーベイランスの定点
平成18年2月に実施しました。定点数は以下の31定点です。

(1)病院（9施設）
横須賀共済、社保横浜中央、国立病院機構相模原、けいゆう、横浜市立みなと赤十字、横浜労災、国際親善総合、横浜市民、市立川崎

(2)開業 横浜（8施設）
野村有子（神奈川区）、浅井俊弥（保土ヶ谷区）、増田智栄子（泉区）、岩井雅彦（青葉区）、伊東文行（都筑区）、袋 秀平（港南区）、川口博史（金沢区）、高橋泰英（中区）

開業 県下（14施設）
菅野聖逸・望月明子（川崎市）、金丸哲山（横須賀市）、武沼永治（藤沢市）、生野重明（大和市）、田辺俊英、大木 和（相模原市）、林 正幸（厚木市）、米元康蔵（海老名市）、栗原誠一（平塚市）、加藤禮三（伊勢原市）、日下部芳志・戸澤孝之（小田原市）、天野隆文（逗子市）

表1. 第6回神奈川県皮膚病サーベイランスの集計結果（性別）

	小計	男計	女計	男/女	定点毎(31)	
①単純ヘルペス（外陰除く）	119	47	72	0.65	3.8	④
②外陰ヘルペス	8	4	4	1.00	0.3	
③カポジー水痘様発疹症	13	7	6	1.17	0.4	
④水痘	11	7	4	1.75	0.4	
⑤帯状疱疹	226	85	141	0.60	7.3	②
⑥手足口病	1	0	1	0.00	0.0	
⑦尖圭コンジローマ	10	9	1	9.00	0.3	
⑧尋常性疣贅	1079	486	593	0.82	34.8	①
⑨青年性扁平疣贅	27	6	21	0.29	0.9	
⑩伝染性軟属腫	191	106	85	1.25	6.2	③
⑪風疹	1	1	0	0.00	0.0	
⑫麻疹	0	0	0	0.00	0.0	
⑬伝染性紅斑	6	1	5	0.20	0.2	
⑭乳児多発性汗腺膿瘍	0	0	0	0.00	0.0	
⑮伝染性膿痂疹	73	35	38	0.92	2.4	⑤
⑯黄ブ球菌性皮膚熱傷様症候群	0	0	0	0.00	0.0	
⑰疥癬	10	4	6	0.67	0.3	
角質増殖型疥癬	0	0	0	0.00	0.0	
⑱毛ジラミ症	0	0	0	0.00	0.0	
⑲頭ジラミ症	16	4	12	0.33	0.5	
⑳梅毒（不顕性を含む）	5	4	1	4.00	0.2	
計	1796	806	990	0.81	57.9	

表2. 第6回神奈川県皮膚病サーベイランスの集計結果（年齢別）

疾患/年齢	0~4	5~9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~	小計
①単純ヘルペス（外陰除く）	5	1	4	2	24	25	14	12	15	17	119
②外陰ヘルペス	0	0	0	0	1	3	0	0	1	3	8
③カボジ-水痘様発疹症	0	0	1	0	7	5	0	0	0	0	13
④水痘	1	7	0	1	0	2	0	0	0	0	11
⑤帯状疱疹	2	3	4	6	18	11	4	35	57	86	226
⑥手足口病	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
⑦尖圭コンジローマ	0	0	0	1	2	2	2	2	1	0	10
⑧尋常性疣贅	36	198	144	65	124	177	123	93	64	55	1079
⑨青年性扁平疣贅	0	0	1	0	6	6	3	6	3	2	27
⑩伝染性軟属腫	92	88	6	0	0	2	3	0	0	0	191
⑪風疹	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
⑫麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑬伝染性紅斑	0	2	1	0	3	0	0	0	0	0	6
⑭乳児多発性汗腺膿瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑮伝染性膿痂疹	28	18	3	0	5	2	6	4	0	7	73
⑯黄ブ球菌性皮膚熱傷様症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑰疥癬	0	0	0	0	1	0	1	2	2	4	10
角質増殖型疥癬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑱モジラミ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑲頭ジラミ症	2	13	0	0	0	1	0	0	0	0	16
⑳梅毒（不顕性を含む）	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	5
計	166	330	164	75	194	236	157	154	146	174	1796

臨床皮膚科医会三支部合同学術集会で報告した冬の結果とまったく同じである。一方、夏は尋常性疣贅、伝染性膿痂疹、伝染性軟属腫、帯状疱疹、単純ヘルペスの順であり、夏と冬の違いが再確認された。性別からみると尖圭コンジローマは圧倒的に男性に多く、水痘や伝染性軟属腫はやや男性に多くみられた。一方、伝染性紅斑、青年性扁平疣贅や頭ジラミ症は圧倒的に女性が多い結果であった。例数が少なく今後の検討課題の一つにしたい。

年齢別の集計結果は表2のごとくである。単純ヘルペスをみると、20歳以降の成人期の疾患といえる。20～30歳代にピークがあるが、40歳以降も平均してみられる。帯状疱疹はやはり中高年に多い疾患である。70歳以降が全体の38%と最も多く、60歳代25%および50歳代15%となり、およそ8割の患者数がこの年齢に分布している。加齢に伴う抗体価の低下が指摘されている。アメリカFDAがすでに開始しているワクチンの予防投与を、この日本でも考える時期ではないだろうか。遊びや仕事に充実している20～30歳代に小さなピークがみられる。一方40歳代は4例と最も少ない。今回だけの出来事なのか、今後の検討課題の二つ目にしたい。

皮膚病サーベイランスも回を重ね8回目を平成19年2月に行った。集計結果を徒然なるままに眺めていると、それなりに夏と冬の面白いデータに気づく。見本となっている兵庫県の皮膚病サーベイランスの結果と比較しても大きな流れの違いはなく、新しいデータも発信できるかもしれない。今後も集計を続けていきたい。お忙しい診療の片手間に雑用を増やし大変申し訳ありませんが、定点になられている先生方には引き続きご協力をお願いいたします。

第4回までご協力頂いた滝沢清宏先生（西区）、杉本純一先生（保土ヶ谷区）、荻谷英郎先生（緑区）、内山光明先生（磯子区）と佐藤龍男先生（川崎市）の開業医の先生方、そして福永有希先生（国立病院機構相模原）、岡澤ひろみ先生（横浜市立みなと赤十字）と安藤巖夫先生（帝京溝口）の勤務医の先生方にはこの場で感謝申し上げます。

現在サーベイランス委員会が行っている作業は、畑康樹先生（済生会神奈川）が責任者の“内服剤で難治な爪白癬症に対する治療法の検討”が実施されています。さらに疥癬に関するアンケート調査を会員全員に配布して、現在集計まとめの段階に入っています。5月に広島で開催される日本臨床皮膚科学会に報告する予定です。充実した委員会メンバーによっていろいろな企画を今後も実施していきたいと考えております。是非ともご協力のほど重ねてお願い申し上げます。